

# TOPPAN

## 環境報告書 2011

トッパンコンテナー(株)埼玉工場の環境報告



## CONTENTS

ごあいさつ	0 2
<b>● 基本理念</b>	
トッパンの社会的責任	0 3
トッパングループ地球環境宣言	0 3
トッパンコンテナー環境方針	0 4
<b>● 環境マネジメント</b>	
環境マネジメントシステムの特徴	0 5
環境マネジメント推進体制	0 5
事業活動に伴うマテリアルフロー	0 6
2009年度の目的目標と達成状況	0 7
環境監査・マネジメントレビュー	0 8
環境コンプライアンスへの対応・環境教育	0 8
<b>● 環境保全活動</b>	
汚染防止と化学物質の管理	0 9
大気汚染予防(ばい煙)	
大気汚染予防(VOC)	
化学物質の管理	
水質汚染予防	
騒音防止・振動防止	
地球温暖化と省エネルギー	1 0
廃棄物の削減とリサイクル	1 1
オフィスエコガード活動	1 1
<b>● 環境保全活動</b>	
社会・人とのコミュニケーション	1 2
<b>● 編集後記</b>	1 2

### 編集方針

埼玉工場の「環境報告書」も2004年の初版発行から8版目となりました。

トッパンコンテナー(株)の環境保全活動に関心や関係のある方に、考え方と取り組み内容をご理解頂いて、対話の起点となる情報公開に努めました。

### 対象期間

2010年度(2010年4月～2011年3月)の実績を中心にしていますが、一部同期間の前後も含まれます。

### 対象範囲

トッパンコンテナー(株)埼玉工場の事業に係わる環境保全活動、環境コミュニケーションなどの取り組みについて報告をしています。

### 表紙について

トッパンは印刷の三原色である青・赤・黄に、社会と接する時の大切な心構えである誠意・熱意・創意という意味を色に込めています。



### 発行年月

前回：2010年 8月  
今回：2011年 8月  
次回：2012年 8月(予定)

### 発行責任部署及び連絡先

トッパンコンテナー株式会社 技術部 技術課

## 会社概要

社名	トッパンコンテナー株式会社 TOPPAN CONTAINERS CO.,LTD.
本社所在地	〒110-8560 東京都台東区台東1-5-1
設立	1952年(昭和27年)10月1日
代表取締役社長	山田恭司
資本金	10億円
従業員数	462名

## 会社沿革

1952年10月	東京都大田区東六郷に資本金5,000万円を以て凸版紙器工業株式会社を設立
1962年9月	埼玉県鳩ヶ谷市に埼玉工場を新設
1967年3月	本社を東京都台東区に移転
1970年1月	商号を凸版段ボール株式会社に変更
1971年6月	栃木県佐野市に佐野工場を新設
7月	資本金を1億円に増資
1974年7月	資本金を2億円に増資
1975年7月	資本金を4億円に増資
10月	宮城県桃生町に宮城工場を新設
1991年7月	商号をトッパンコンテナー株式会社に変更
2004年4月	資本金を10億円に増資
2005年4月	三栄紙器株式会社を合併し、熊谷事業所を開業
7月	凸段運輸加工株式会社を合併
2006年3月	埼玉工場に総合物流棟を新設
2009年6月	ISO 9001 認証取得

## 環境活動あゆみ

2001年3月	営業部門(秋葉原) ISO 14001 認証取得
2003年6月	ソニーグリーンパートナー環境品質認定制度認証取得
2004年4月	埼玉工場及び宮城工場 ISO 14001 認証取得
7月	サイトレポート初版発行
	以後、毎年発行
8月	第1回環境保全活動報告会開催
	以後、毎年開催
11月	埼玉県中央広域行政推進協議会研修会開催
2005年4月	佐野工場 ISO 14001 認証取得
2006年4月	ISO 14001:2004年度版に移行
	VOC排ガス処理施設の稼働開始
2007年4月	ISO 14001 更新
8月	ボイラー燃料等を都市ガスに変更
2010年4月	ISO 14001 更新



## ごあいさつ

埼玉工場はトッパンコンテナー株式会社の基幹工場として、1962年(昭和37年)操業を開始しました。

この間、グラビア印刷機で使われる有機溶剤の水溶性化、ボイラー燃料を灯油から都市ガスに変換してCO<sub>2</sub>の排出を削減し、有機溶剤を燃焼させるVOC排ガス燃焼装置を設置して、地球温暖化の対策を継続的に図っております。

現在、電力不足に対する節電対策として、照明のLED化、照明の削減、空調の停止・温度管理徹底などを行って、使用電力の削減活動を行っております。

東日本大震災で宮城工場は被災しましたが、近隣への環境影響を及ぼすことなく2週間程度で復旧しております。

埼玉工場においても緊急時の対応訓練などを実施しており、埼玉工場からの未処理排水やインキ等の化学物質の漏洩による環境への影響が発生しないよう心掛けております。

トッパンコンテナー株式会社では、トッパングループ全体の活動基本理念であります「トッパングループ地球環境宣言」を全従業員が認識し、社会から信頼される企業を目指しています。

埼玉工場では環境保全へ取り組みながら地域社会から信頼される工場の実現に向けて努めてまいります。

環境報告書は8回目となりますが、私どもの環境に対する考え方や取り組みを本報告書でご理解頂く、一助となればと考えております。

また、今後の環境に対する取り組みの為に、ご意見をお聞かせ頂ければ幸いです。



2011年 8月

トッパンコンテナー株式会社  
埼玉工場 工場長

鈴木 和一郎

### トッパンコンテナー株式会社 埼玉工場

住 所： 〒334-0012 埼玉県鳩ヶ谷市八幡木2丁目3番1号  
操 業： 1962年(昭和37年)  
敷地面積： 32,992m<sup>2</sup>(9,980坪)  
建物面積： 21,604m<sup>2</sup>(6,535坪)  
従 業 員： 191名 [2010年3月末]  
製造品目： 段ボール 及び 段ボール箱



### トッパンコンテナー株式会社 本社

住 所： 〒110-8560 東京都台東区台東1丁目5番1号

### トッパンコンテナー株式会社 佐野工場

住 所： 〒327-0816 栃木県佐野市栄町17番2号

### トッパンコンテナー株式会社 宮城工場

住 所： 〒986-0314 宮城県石巻市桃生町寺崎字新町88番

### トッパンコンテナー株式会社 熊谷事業所

住 所： 〒360-0012 埼玉県熊谷市上之3450番

本社



# 基本理念

## トッパンの社会的責任

トッパンの企業像は「企業理念」「経営信条」「行動指針」の3つで構成され、企業活動を行ううえでの価値観や規範・指針のすべてが含まれています。  
この企業像を実現することこそがトッパンの社会的責任にほかなりませんし、トッパンコンテナーの全社員も現実すべく行動しております。

### 企業理念

私たちは  
常にお客様の信頼にこたえ  
彩の知と技をもとに  
こころをこめた作品を創りだし  
情報・文化の担い手として  
ふれあい豊かなくらしに貢献します

### 経営信条

私たちは  
誠意・熱意・創意にもとづく活動を通じて  
お客さまとの信頼を築きます  
私たちは  
グローバルな視点にたつて  
独創性に富むマーケティングと技術開発を行い  
事業の刷新に努めます  
私たちは  
社会的責任を認識し  
地球環境との調和をめざすとともに  
公正で開かれた企業活動を行います  
私たちは  
ひとりひとりの能力とチームワークを最大限に活かし  
働きがいのある企業風土をつくります  
私たちは  
新たな可能性を拓くことにより  
企業の価値を高め  
トッパングループの持続的な発展を図ります

### 行動指針

#### 第1章 基本原則

1. 基本的人権を尊重する
2. 公序良俗に反しない
3. 法と倫理を遵守する
4. 公正な事業活動を行う
5. 品質の向上に努める
6. 情報の管理・開示を適切に行う
7. 環境と安全に配慮する

#### 第2章 具体的な行動指針

- 第1節 お客さまとの信頼を築くために
- 第2節 事業の刷新をするために
- 第3節 社会的責任を果たすために
- 第4節 働きがいのある企業風土を実現するために
- 第5節 トッパングループの発展のために

## トッパングループ地球環境宣言

トッパンは1992年に環境活動の基本理念とその実現に向けた行動指針を示す「凸版印刷地球環境宣言」を制定して活動を推進してきましたが、新たにトッパングループ全体の活動基本理念を「トッパングループ地球環境宣言」と改め、将来にわたってあらゆる生命体が存続できる持続可能な社会の実現を目指し、より積極的に地球環境の保全に取り組むことを宣言致しました。

### トッパングループ地球環境宣言

私たちは責任ある国際社会の一員として、  
トッパングループで働く者全員が、  
未来を見据えた地球環境の保全に配慮した企業活動を通じて、  
持続可能な社会の実現に努めます。

- 基本方針
1. 私たちは、環境に関する全ての法令及び社内規定を遵守します。
  2. 私たちは、地球の未来のために、限りある資源の有効活用と、あらゆる環境負荷の低減に努めます。
  3. 私たちは、先見性をもって環境に配慮した製品の開発と普及を促進し、お客さまの環境活動に貢献します。
  4. 私たちは、社内外の広範な人びとと環境に関するコミュニケーションの活性化を図り、相互理解に努めます。
  5. 私たちは、国際社会における企業活動においても、環境保全に積極的に取り組みます。

## トッパンコンテナー株式会社 環境方針

トッパンコンテナー株式会社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題のひとつであることを認識し、環境に対する基本理念である「トッパングループ地球環境宣言」に従い、未来を見据えた地球環境の保全に配慮した、段ボール・段ボール製包装材料の箱の製造などの事業活動を行うため、下記の環境保全活動を推進します。

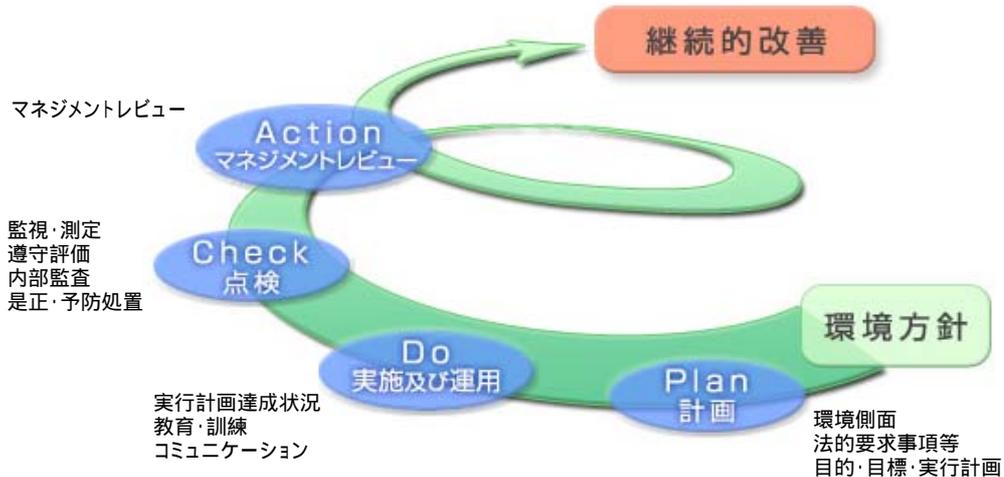
1. 事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響を意識し、技術的及び経済的に可能な範囲で全従業員が環境保全活動に積極的に取り組みます。
2. 当社の環境側面に関わる環境関連法令・条例・協定及びその他の要求事項を順守し、可能な限り自主管理基準を定め環境汚染の予防に努めます。
3. 生物多様性の保全・環境への影響を常に配慮して、事業活動に関わる環境側面のうち、
  - 1) 電力、燃料消費量の抑制を中心とした省エネルギー
  - 2) 紙屑、廃プラスチック等廃棄物の削減とリサイクル
  - 3) 環境管理物質等、環境負荷の著しい化学物質の削減と適正管理
  - 4) 排水の環境負荷低減と自主管理基準の順守
4. 環境目的・目標を定め、定期的に見直すことにより継続的改善を図ります。
5. 地域社会における環境活動への支援、協力や情報提供を積極的に行い、地域社会との共生を図ります。
6. この環境方針は当社従業員及び当社のために働く全ての人に周知するとともに、環境意識の向上を図るために環境教育を推進します。  
また、外部の人々にも適切な情報開示に努めます。

2009年 6月 30日  
トッパンコンテナー株式会社  
代表取締役社長 山田 恭司

## 環境マネジメントシステム

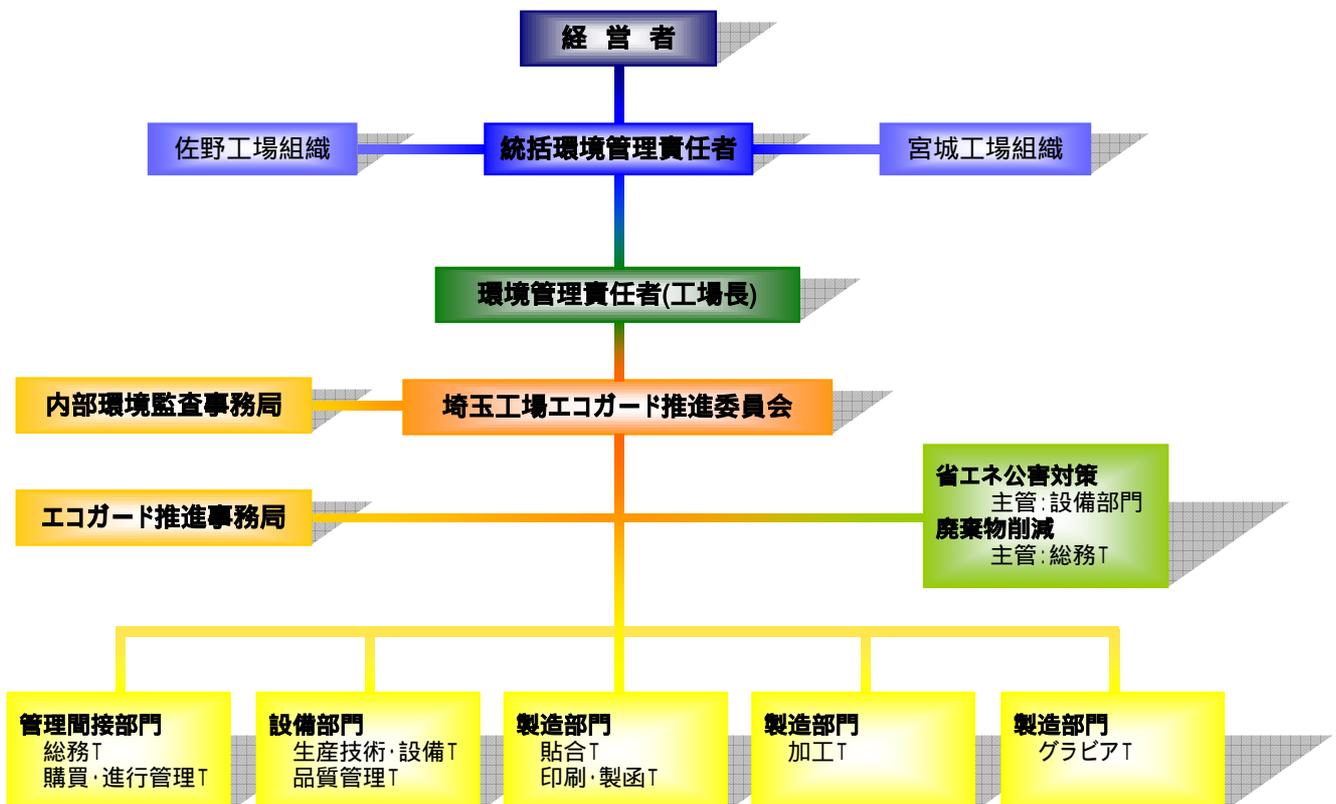
### 環境マネジメントシステムの特徴

埼玉工場は2004年4月にISO 14001の認証を取得し、2011年5月に定期認証を受けております。環境方針に基づき、エネルギー使用量や廃棄物量などの主要な環境負荷項目について、工場の全部門が環境実行計画を作成し、目標達成に向けた活動を推進しています。エコガード推進委員会にて活動進捗の確認・検討が行われ、課題が生じたときは速やかに是正が図られるようになっております。また、システムが有効に機能しているかを内部環境監査で確認し、これらの情報を経営者が評価・検証しています。このようにPDCAサイクルを廻して、環境負荷低減の継続的改善につなげてスパイラルアップしています。



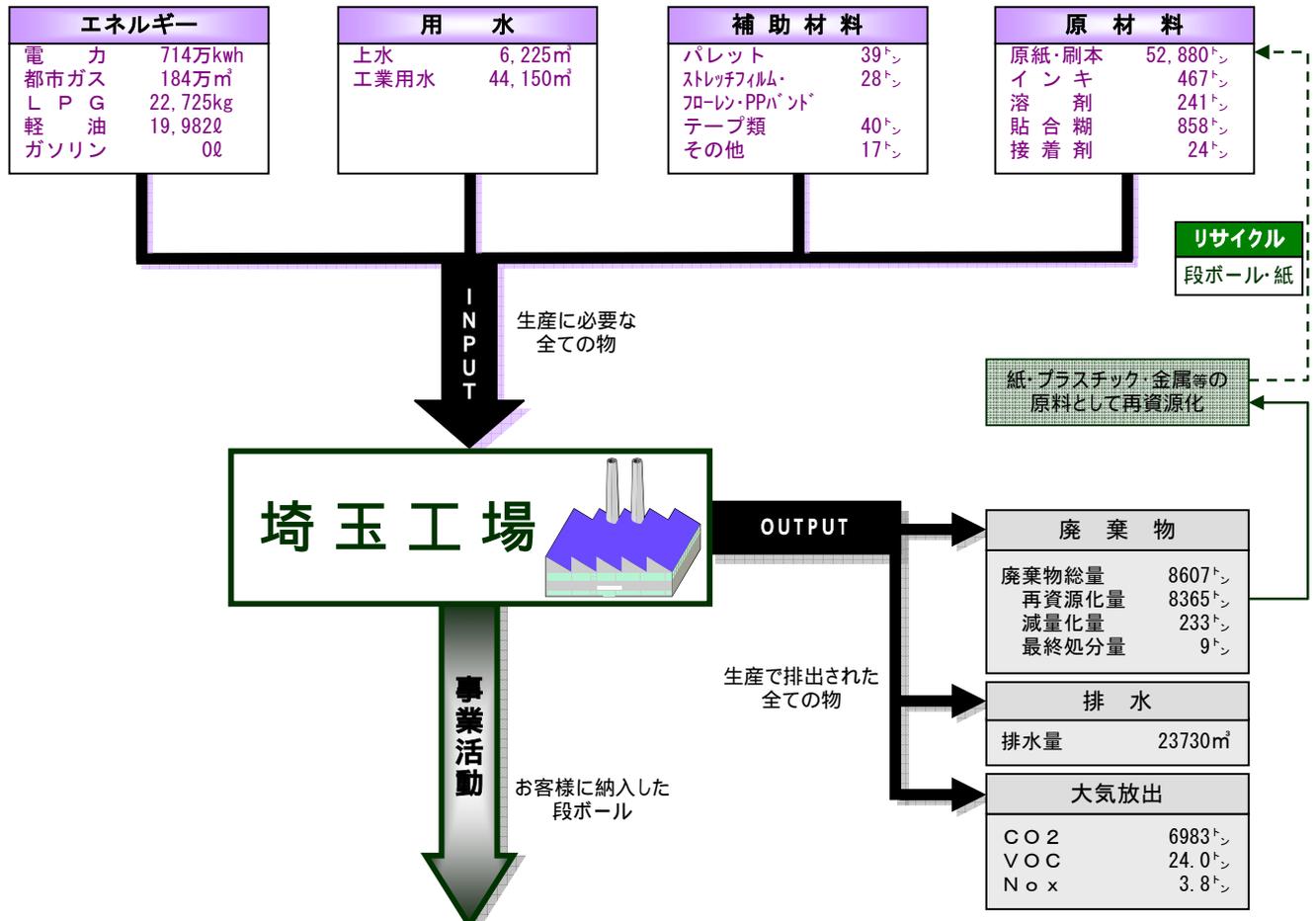
### 環境マネジメント推進体制

埼玉工場の環境保全活動は環境管理責任者(工場長)が委員長を務める「エコガード推進委員会」が工場全体を統括し、5つの部門で推進を図る体制になっています。エコガード推進委員会では環境実行計画の推進、外部・内部情報、不具合等の諸問題を検討・処置しております。



環境マネジメント活動

事業活動に伴うマテリアルフロー



段ボール製品

美粧段ボール	ADケース	段ボール製POP
ELケース	TPTトレー	マイクロフルーツ

トッパン環境配慮型製品

トッパンの環境配慮型製品は、企画商品等に対し13項目の環境評価をおこなってトッパン基準をクリアした商品です。環境配慮型製品には右のマークを付けて、お客様にご紹介しております。



## 環境マネジメント活動

### 2010年度の目的・目標と達成状況

2010年度の環境に対する目標を9項目設定し、環境活動を進めてまいりました。

埼玉工場の従業員が一丸となった環境活動の結果を報告させていただきます。

2011年度の環境目標は製造工程ロスの削減・古紙などの産業廃棄物の削減・CO<sub>2</sub>排出につながるエネルギーの削減を図り、2011年度環境目標の達成にむけて活動を推進していきます。

大項目	環境目的	2010年度環境目標	目標値	実績	評価	2011年度環境目標
地球 温暖化 防止	エネルギーの削減 生産量原単位を2010年度までに、 2001年度実績の1.81GJ/千㎡ (基準)まで回復する。	環境目的である1.81GJ/千㎡とする。	原単位 1.81 GJ/千 ㎡	原単位 1.99 GJ/千 ㎡		2001年度実績の1.81GJ/千㎡を基準とし、2001年度実績まで回復させる。 CO <sub>2</sub> 排出量は埼玉県条例 基準排出量の6737t-CO <sub>2</sub> を目標とする。
資源 循環 環	廃棄物総量の削減 生産量原単位を2010年度までに、 2001年度実績の130.8kg/千㎡ (基準)の84.0%に削減する。	2001年度実績の130.8kg/千㎡ (基準)の84.0%(109.9kg/千㎡) に削減する。	原単位 109.9 kg/千㎡	原単位 110.5 kg/千㎡		2001年度実績130.8kg/ 千㎡の84.0%(109.9kg/ 千㎡)に削減することを目 標とする。
	古紙量の削減 生産量原単位を2010年度までに、 2001年度実績の120.4kg/千㎡ (基準)の86.0%に削減する。	2001年度実績の120.4kg/千㎡ (基準)の86.0%(103.5kg/千㎡) に削減する。	原単位 103.5 kg/千㎡	原単位 105.0 kg/千㎡		2001年度実績の120.4 kg/千㎡を基準に、86.0 %(103.5kg/千㎡)に削 減する。
	廃棄物非再資源化量の削減 2001年度生産量原単位2.6 kg/ 千㎡の33%である0.86kg/千㎡ を維持する。	2008年度実績0.88kg/千㎡を 維持して、基準年度の34%と する。	原単位 0.88 kg/千㎡	原単位 0.84 kg/千㎡		2010年度実績0.84kg/ 千㎡を目標とする。
資源有 効利用	コピー用紙の削減 2003年度を基準として、2010 年度には76%に削減する。	2009年度実績の2%削減とし、 183.3kg/月とする。	183.3 kg/月	166.0 kg/月		前年使用量比の 2%の削減を図る。
	グリーン購入の推進 2003年度を基準として、2010 年度には76%に削減する。	グリーン購入金額比率を97%以上 に維持する。	97% 以上	98%		グリーン購入 金額比率97%以上 を維持する。
特定化 学物質	トルエンの削減 トルエンの代替は技術的課題の解決 を待って再開する。その間は現行の 商品以外には拡大せず、前年使用量 以内を維持する。	前年使用量以内を維持する。	0.1ton 以下	0.06to n 以下		前年使用量以内を 維持する。
水質	水質汚濁関係法規制値の遵守 及び自主管理基準値の遵守	放流水の自主管理基準値からの 逸脱0件	0件	0件		放流水の自主管理 基準値からの 逸脱0件
環境 マネ ジメン ト	環境コミュニケーションの 維持向上	地域の方々との交流推進 工場見学会の開催 地域イベントへの参加 サイトレポート発行	各1回 /年	各1回 /年		地域の方々との交流 工場見学会の開催 地域イベントへの参加 サイトレポート発行

評価： 目標値の100%以上  
目標値の95～100%未満  
目標値の95未満

## 環境マネジメント活動

### 環境監査

#### 環境監査

毎年、内部監査員による環境監査と凸版印刷エコロジーセンターによる内部環境監査で、環境マネジメントシステムの運用状況や環境関連法規制の遵守状況の確認をおこなっています。

#### 外部審査

2004年にISO14001の認証を取得して以来、審査登録機関による毎年の定期審査及び3年毎の更新審査を受審しています。2011年4月に定期審査を受け、ISO14001の認証を継続しております。

### マネジメントレビュー

内部環境監査・社内(凸版印刷エコロジーセンター)環境監査の結果、法令・法規制値の遵守状況、目標の達成状況、内部・外部情報などを報告して、経営者の評価を受けております。継続的改善が必要な場合には、マネジメントシステム、環境方針、目的・目標の見直しを行っております。

### 環境コンプライアンスへの対応

トッパンコンテナー埼玉工場では、環境に関する法令・条例などを遵守することはもとより、自主管理基準値を設けて、管理することで環境汚染の防止に努めています。

#### 2010年度の遵守状況

2010年度の法規制値・自主管理基準値の遵守状況は、大気・水質・臭気・騒音のいずれも問題なく、自主基準値内であることを確認しております。

#### 緊急事態への対応

東日本大震災の時も緊急事態の初期対応を行ってから非難を行うなど、緊急事態においても環境を意識した対応をしております。

工場において日常的に行われる作業の中で、排水処理施設からの未処理水の漏洩・廃棄物ドラム缶の転倒などの事故が発生した場合、水質汚染などの問題を引き起こすこととなります。

工場では、想定できるこのような事故を未然に防止するため、土嚢などを備えておくとともに、緊急事態を想定した訓練を毎年実施しております。

インキ等のドラム缶転倒を想定した流出防止訓練



消防訓練

毎年、鳩ヶ谷市消防署に指導を頂き、訓練を実施しておりますが、東日本大震災発生の関係で訓練を中止しました。

機械からの出火を想定した消火訓練



地震避難訓練 [ 東日本大震災の余震を考え実施 ]



### 環境教育

日常業務の中で、環境保全活動を行うことは重要であり、従業員ひとりひとりが環境問題を正しく理解し、高い意識を持つことが必要と考えております。

埼玉工場では、全従業員の環境教育や環境汚染の原因となる可能性を持つ作業に従事する者への専門教育・訓練を実施しています。

環境関連資格者

埼玉工場 法定資格者					
公害防止統括者及び代理者	2名	統括安全衛生管理者	1名	危険物取扱者	7名
公害防止管理者及び代理者	4名	安全管理者	1名	ボイラー取扱作業主任者	3名
特別管理産業廃棄物管理責任者	1名	衛生管理者	2名	有機溶剤作業主任者	3名
エネルギー管理者	2名	電気主任技術者(3種)	1名	特定化学物質管理者	1名
防火管理者	3名	危険物保安監督者	2名	環境負荷低減主任者	1名

汚染防止と化学物質の管理

埼玉工場では事業活動を行う上で関係する法規制に対応するため、自主管理基準値・設備管理手順書・作業手順書を作成・運用し、エコガード推進委員会で遵守状況を確認して、環境汚染の未然防止に努めています。

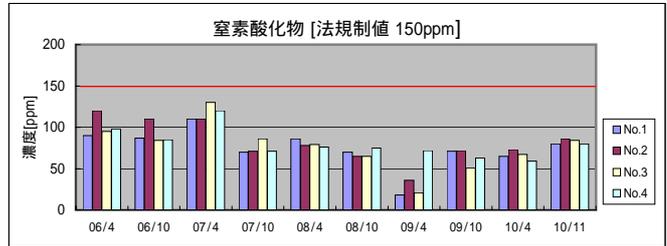
大気汚染防止

《 燃焼排気 》

2007年8月にボイラーの燃料を都市ガスに変更し、排出の測定値は大幅に改善されています。

窒素酸化物濃度

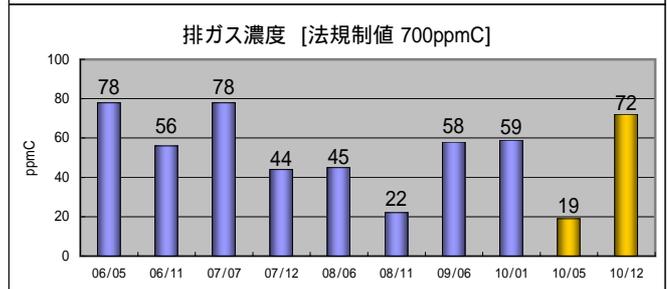
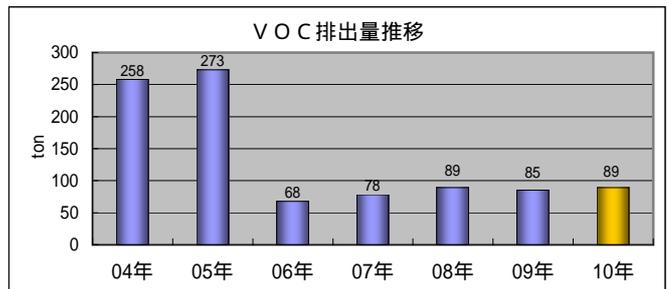
ボイラー	法規制	測定4月	測定10月
No.1	150	17.4	69.2
No.2	ppm	36.4	67.4
No.3	猶予	20.3	47.2
No.4		64.6	59.3



《 VOC排ガス濃度と大気排出量 》

2006年にVOC排ガス処理設備を導入し、光化学スモッグの原因物質となる揮発性有機化合物(VOC)の排出規制に対応しています。

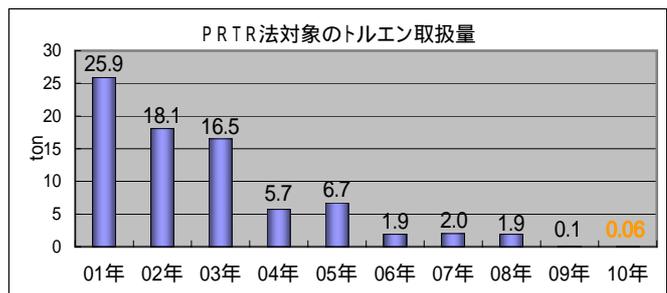
- ・ VOC排ガス処理施設



化学物質の管理

埼玉工場では、工場で使用する化学物質についても購入から排出・廃棄までの全ての工程で適正管理と削減に努めています。

グラビアンキや溶剤の水溶性化やノントルエンの推進で、キシレンの全く使用はなくなり、トルエンの使用も水溶性化により、2001年度の使用量から見ると右のグラフには表現できない程の量になり、5年前の1割以下の5.8kgまで削減することができました。

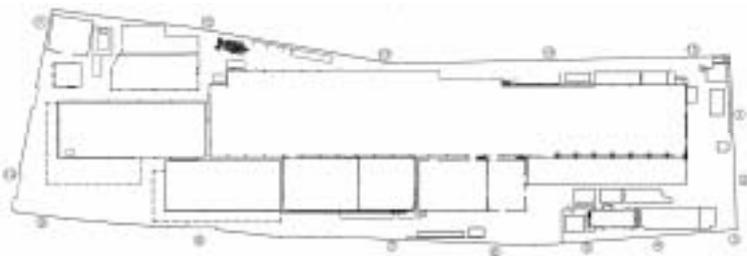


騒音防止

埼玉工場では敷地境界線15ヶ所の騒音測定を行い、状況の確認をおこなっています。測定結果から騒音の防止や対策に努めています。

振動防止

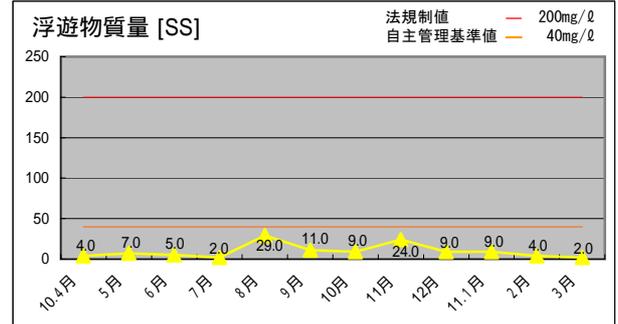
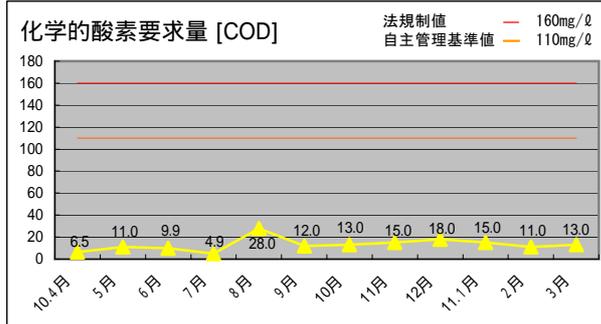
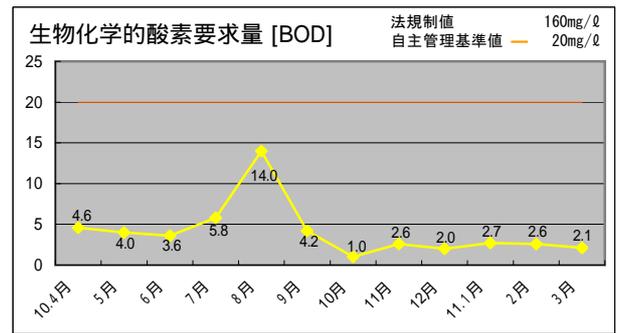
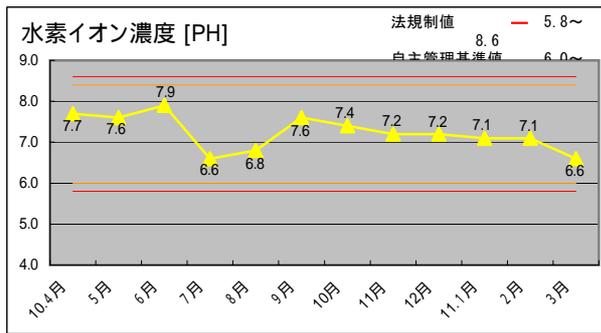
騒音測定と同じ敷地境界線15ヶ所で振動測定を行って、振動状況を確認しています。測定結果では逸脱した値はありませんでした。



## 環境保全活動

### 排水汚染防止

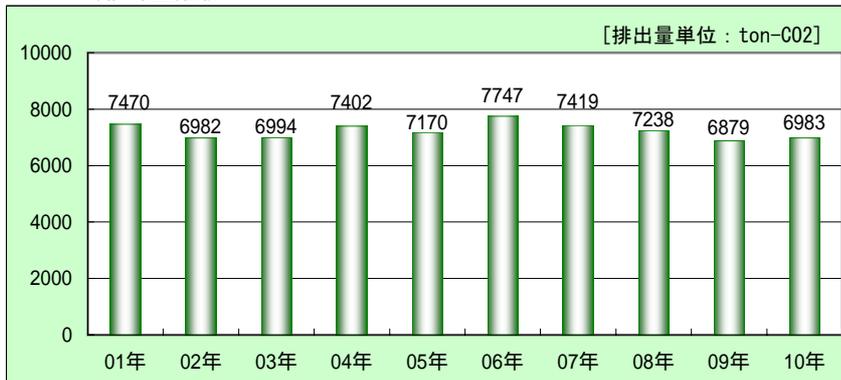
埼玉工場からの排水は排水処理設備を通して、毛長川に放流しています。  
排水処理設備の日常点検と放流水の測定を毎月実施して、放流水の水質を管理しています。



## 地球温暖化防止と省エネルギー

埼玉工場では二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)をはじめとする温室効果ガスの排出抑制のために、省エネルギー活動に取り組んでいます。生産量増加や新規生産設備・環境保全設備・付帯設備導入によりエネルギー消費量は増加傾向にありますが、ボイラー及びVOC排ガス燃焼設備の燃料をCO<sub>2</sub>排出の少ない都市ガスに転換したり、一部の照明をLED化するなどの対策によりCO<sub>2</sub>排出の削減に努めています。

### CO<sub>2</sub>排出量推移

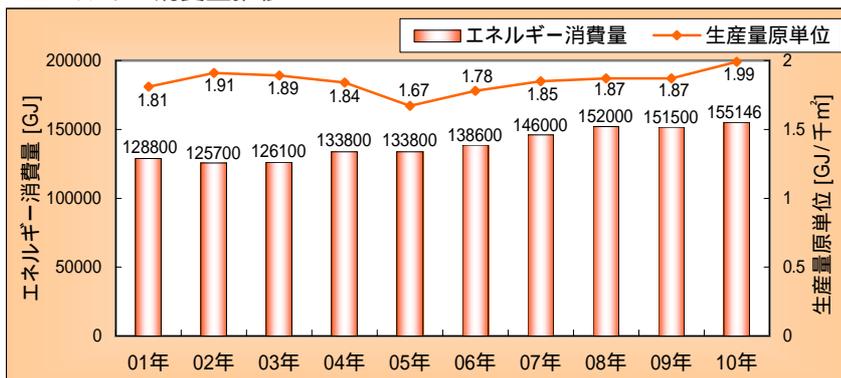


### 省エネルギーへの取り組み

2009年度はエネルギー(電力)消費量監視システムを導入、各設備のエネルギー使用状況を監視して、無駄を無くすよう

2010年度はエネルギー(電力)消費量監視システムを有効活用して、更なる省エネルギー活動を推進し、CO<sub>2</sub>の削減に努めました。しかし、製造工程数の多いものが増えたことで、CO<sub>2</sub>排出量が前年よりも増加する結果となってしまいました。

### エネルギー消費量推移



恒例となった事務棟ロビーの窓を緑のカーテンや空調温度管理により、空調機器の使用量の削減に努めています。



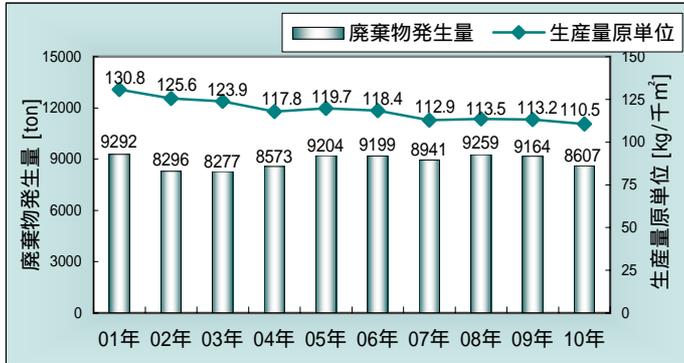
## 環境保全活動

### 廃棄物の削減とリサイクル

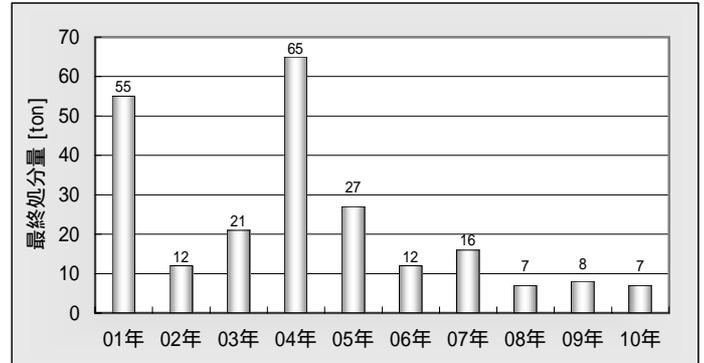
埼玉工場では限りある資源を大切に使うため、生産工程で発生する廃棄物の削減と廃棄物を資源にする有効利用に取り組んで、可能な限りの廃棄物総量削減と循環利用に努めています。

埼玉工場の全部門がロス削減に向けて、目標を前年以下の廃棄物物量として削減活動に取り組みました。その結果、2010年度は前年より約500 tonも削減ができ、廃棄物発生量及び生産量原単位を減らすことができました。

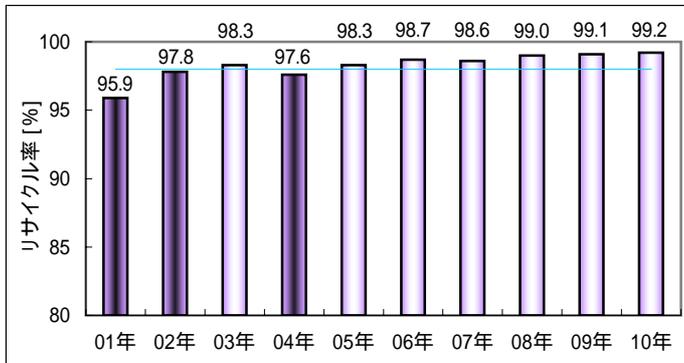
廃棄物発生量推移



最終処分量推移



リサイクル率推移

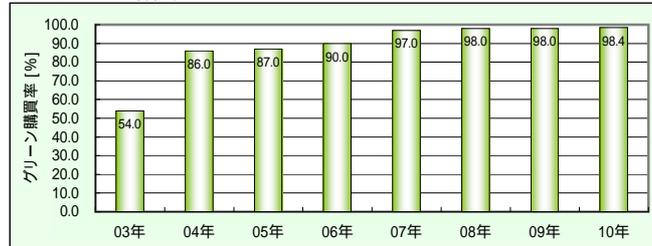


トップランは2001年にゼロエミッション事業所認定制度をスタートさせ、再生・再資源化率向上を目指しています。認定の基準にはリサイクル率98%以上で、凸版印刷エコロジーセンターが行う環境監査の必要条件を満たしているがこと認定の条件となっています。埼玉工場は2007年度にゼロエミッション認定事業所として認定を受け以来、4年続けて認定基準を満たしています。

### オフィスエコガード活動

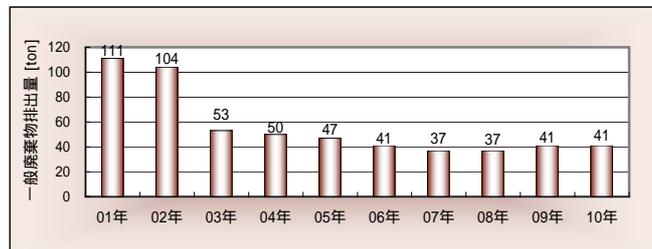
埼玉工場では温暖化対策の重要性を認識し、全てのパソコン、空調、照明等の節電に取り組んでいます。資源の循環利用も重要なかだいとして、グリーン購買の拡大・コピー用紙の使用量削減・ゴミ(事業系一般廃棄物)の分別徹底などのエコガード活動を推進しています。

グリーン購買



グリーン購入基準	
対象製品	購入基準
OA用紙	古紙配合率が70%以上であり、白色度が80%以下であること
コピー機・プリンタ	一定時間以上使用しないと自動的に低電力モードやオフモードに移行する機能が充実していること
パソコン	一定時間以上使用しないと自動的に低電力モードやオフモードに移行する機能を備えており、低電力モードでの消費電力が小さいこと
トイレトーパー	原料が古紙100%であり、白色度が80%以下であること
文具・事務用品	エコマーク、グリーンマーク等環境配慮型マーク認定の商品であること

事業系一般廃棄物の排出量推移



2010年度の一般廃棄物量は41 tonと、前年と同じ排出量でした。事務所・工場内にリサイクルステーションを設けて、12種類のゴミに大別して収集を行い、再利用・再資源化をしやすいようにしています。

分類	新聞・雑誌	OA用紙	コピー用紙
	段ボール	書類(シュレッダ-)	封筒
ペットボトル	空き缶	空き瓶	
プラスチック	乾電池	可燃物	

#### 生物多様性

生物多様性とは、生物の一つひとつには個性があり、直接・間接的に支えあって生きており、気付かないうちに自然から多くの恵みをうけています。

埼玉工場では活動における生物多様性の危機をすこしでも減らすため、工場敷地内緑地での殺虫剤・農薬等の使用を極力避けて、生息地・育成地の減少防止にこころがけております。



#### 2010年度コミュニケーション活動

##### 埼玉工場見学会

近隣の方々に埼玉工場を見学して頂き、工場内の環境設備などをご案内しました。



##### 埼玉工場ビール祭り

近隣の方々に工場見学して頂いた後、ビール祭りにも参加して頂きました。



#### 清掃活動

工場周辺の清掃を定期的を実施しております。

鳩ヶ谷市が提起している「クリーンまちづくり運動」に総務部門が主体となって参加し、近隣の方々と町内の一斉清掃をおこないました。また、「はとピカパートナー」として工場周辺の清掃を行ってまいります。

### ご意見・ご感想をお聞かせ下さい

トッパンコンテナー(株)埼玉工場の2011年度版「環境報告書」をご覧いただきありがとうございました。

8回目の発行となりますが、内容や表現には改善すべき点が多々あると考えております。つきましては、皆さまのご意見・ご感想をお聞かせいただき、今後の「環境報告書」の作成に役立たせていただきたいと思っております。



